

2023 年度 上期

2024 年 4 月 8 日

みやぎ生協 福祉活動助成金 助成活動報告書

団体名	もりの工房	
代表者名	一條重人	
連絡先 TEL : FAX :	E-mail woodsfactory.2020@gmail.com	

1、助成事業報告

助成を受けた事業名	乳牛・人・自然が豊かに調和する里山の保全活動
事業の目的	・ 障害者と共に里山の保全活動、放置竹林の管理を行う。 ・ 保全活動を行うプロセスで、障害者に作業の習得、道具を扱うスキルを身に付けてもらい、就労の機会を増やしていく。
事業の具体的内容	・ 振動が少なく、静かで軽い電動の道具を使用し、障害者と共に里山の保全活動を行う。 ・ 保護具を着用し、安全の確保ができるよう、指導しながら、スモールステップで作業習得を行い、成功体験を積み重ねることのできる環境の中で、確かな成長を実感してもらう。 ・ 障害者が、里山の保全活動を行うプロセスで習得したスキルを活かし、地域で協働・共生していくための土壌作りを行う。
活動の開始から完了までの流れ	【道具の選定】 障害者でも扱うことのできる、軽くて音や振動の少ない電動の道具を、障害者と共に選定する。 【危険予知講習】 道具を取り扱う上での基本的な構造や、作業中に起き得る危険を学ぶ。 【作業の取り組み】 障害の特性を理解し、安全第一で作業に従事できるよう配慮を行う。騒音の少ない電動の道具を使用することにより、指示が通りやすく、危険を感知しやすい環境の中で作業に取り組んでもらう。

	【成長実感】 取り組んだ作業に対し、振り返る習慣や周りからのフィードバックにより成功体験を積み重ね、確かな成長を感じてもらう。 【協働・共生】 障害者でも安全・安心に作業ができるよう作業環境を整備する。障害者が社会で活躍するための土壌づくりの一助となれるよう努めていく。
活動の成果と教訓	・ 多くの人に愛される里山へと変容することができました。 ・ 障害者が作業を習得し、道具を扱うスキルを身に付けていくプロセスの中で成功体験を積み重ね、確かな成長を実感し、働く喜びを実感してもらうことができました。 ・ 障害者が技術を習得することで、就労機会の創出、社会参加の拡大が図れ、住み慣れた地域で暮らし続けることができる環境へと変容するためのきっかけとなることができました。 ・ 高齢化や後継者問題で人手不足に悩む農業と、就労先を求める障害者の架け橋となり、障害者が地域で活躍し協働できる社会へと変容するためのきっかけとなることができました。 ・ 障害者が成長していく姿や、生き活きと作業に取り組む姿に、周囲から『障害に対する理解や障害者の可能性について考える機会になった』という意見を頂きました。 ・ 障害者が働くことへの偏見が残る地域で、障害者と共に働くことの成功事例を示すことが、地域の意識の変容に繋がると信じて活動しています。 また、私どもの活動を PR し、ロールモデルとなることで、より多くの障害者の就労機会が創出できると信じています。
今後の展望など	・ 障害者と共に里山の保全活動を続けていき、障害の有無に関わらず、誰もが協働・共生できる地域社会へと変容できるよう努めていきたいと思っています。 ・ 障害者と共に保全活動を行なった里山に多くの人に来てもらい交流人口を増やしていきたいと思っています。放課後デイサービスに通う障害児の方や、地域に子供たちを受け入れ、乳牛・人・自然が豊かに調和する里山を肌で感じてもらう活動を、障害を抱えた方と行なっていきたいと思っています。

2、助成金使途報告書

■ 収入の部

確保した資金内容	金額（円）	備考
福祉活動助成金	300,000	
会費	400	
合計	300,400	

■ 支出の部

費目	内容	予算額（円）	実支出額
備品購入費	ハジトリマアタッチメント	44,800	44,800
備品購入費	充電式高枝チェンソー	72,800	72,800
備品購入費	充電式チェンソー	84,800	84,800
備品購入費	バッテリー	17,400	17,400
備品購入費	刈払機 MUX18DRGM	54,800	54,800
備品購入費	刈払機 EN423MP	25,800	25,800
合計		300,400	300,400

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

もりの工房

ありのままの自分で
生きられる社会をめざして

学び

食やしごと、いのちの大切さを学ぶ
酪農教育ファーム

活かす

農福連携で共生可能な地域づくり

守る

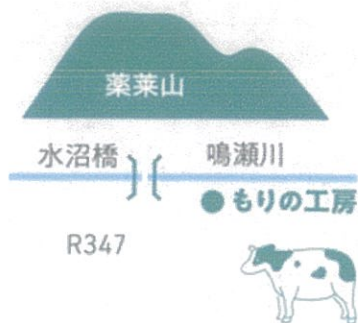
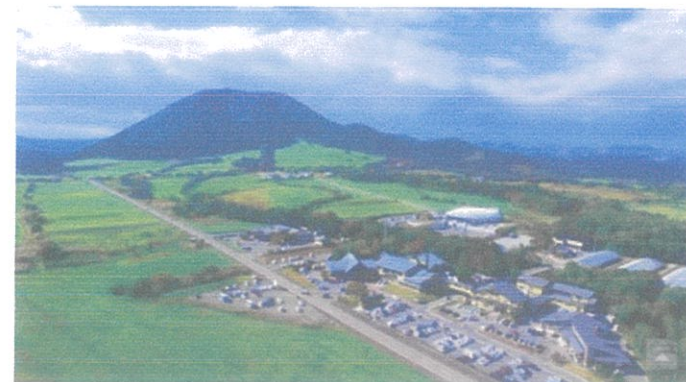
乳牛・人・自然が豊かに調和する里山の保全



メンバー紹介
酪農教育ファームファシリテーター

小松 紀仁

知的障害を抱えながら牧場でいきいきと働き、
酪農教育ファームファシリテーターの認定を受け
「食やしごと、いのちの大切さ」を伝える講師として活躍中



【食育】
酪農教育ファームの開催

障がいを抱えながら
牧場でいきいきと働く

講師 小松紀仁（酪農教育ファームファシリテーター）

日程 令和4年9月2日（金）

時間 開演14:00 / 開場13:00

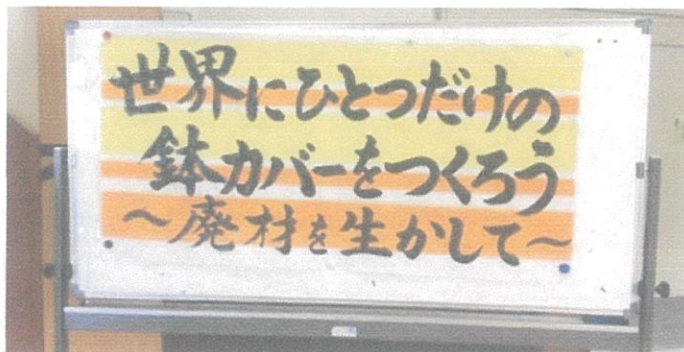
会場 漁信基ビル702会議室
宮城県仙台市青葉区本町3丁目6-16

内容

- ・牛のからだについて
- ・牧場でのしごとについて
- ・紙芝居 加美町郷土物語



出前教室



持続可能な農業への取り組み

2023年7月21日（金）大崎タイムズ 掲載記事

2023年（令和5年）7月21日（金曜日）



真剣な表情で色を塗る生徒たち

廃材使い鉢カバー制作
古川支援学校 高等部の生徒たち
牧場から出るプラスチック廃材を使い、植物の成長を助ける鉢カバーを作るワークショップが11日、県立古川支援学校で開かれた。取り組んだのは高専部の生徒18人。デザインや色使いなどを工夫しながら制作活動を行った。生徒たちは「加美町の団体「もりの工房」(一休庵人代)が、三井住友信託

廃材を利用したワークショップ

- ・開催日 2023年7月11日（火）
- ・開催場所 宮城県立古川支援学校 集会所
- ・参加メンバー 宮城県立古川支援学校高等部 18名
- ・講師 臨床美術士 中島優理

参考しながら制作。アクリル絵の具を使い、1色をわらなく塗ったり、グラデーションを活用したりして、思い思いに作品を仕上げていった。紙粘土で立体的なカバーを作った男子生徒は「先の練習では作業に取り入れてもらえなかったという。作品は誰が何を知らずに理解向上を目的に、農業山麓の牧場まで展示する予定。一休庵表示によると、この取り組みを就労支援事業所の作業に取り入れてもらえたと満足そうなお話を聞かされていた。

大崎タイムズ

発行所
大崎タイムズ社
〒984-0201 大崎市長町5丁目3番23号
TEL 0229-22-2181
FAX 0229-22-2195
http://www.okazaki-times.com

●代表電話 22-2181内
●編集局 22-2187
●編集室 22-8633
●読者局 22-2198
●広告局 22-2182
●印刷局 22-2183

里山の風景



放置竹林



栗の木



クルミの木



居久根



大銀杏・
鳥居・祠



蛍の生息できる
小川

里山保全活動

【安全対策】

- ・ 保護具の着用
- ・ 危険予知講習

